

【会長賞②：小学生の部】

「兄への思い」

神奈川県・横浜市立葛野小学校

6年 勝野 迪 さん

ぼくには1つ年上の兄がいる。特別支援学校の中学部1年生だ。生まれた時から障がいのある兄がいるということは、ぼくの考え方や性格にたくさんの影響を与えてくれたと思う。

兄との毎日の暮らしの中で感じた事を基に障がいについて考えてみたいと思う。

ぼくの家では障がいのある兄を家族全員でサポートしている。兄には食事、入浴、排泄、着替えなど日常生活を送る上で細やかな介助が必要だからだ。

ぼくは祖父や父がいない夜、時々入浴介助をする。兄の表情を確認しながら、体を洗ったり一緒に湯船につかったりする。

介助は確かに大変だと思う時もある。だが、兄がいつも笑顔で「ありがとう」と言ってくれると、なんだか嬉しくなってくる。

兄は知的障がいと自閉症という2つの障がいがある。

知的障がいと自閉症の特徴として、言葉の発達に遅れがある、初めての事や変化が苦手、順番が待てない、コミュニケーションが上手く取れない、こだわりがある、想像力がとぼしいなどが挙げられる。

小さい頃の兄は、大好きなプールや遊具での遊びをなかなか切り上げられなかった。言葉が無く、初めての場所や暗い所を大泣きして嫌がったり、並んで長い時間待つと怒り出したりした。

だが、どんなに怒っても兄の攻撃は自分に対してで、決して人にあたらなかった。初めて兄の自傷を見た時、痛々しく思った。

自分が気に入らない事があるとすぐに怒り出し、自分を傷つける兄を見て、正直この先大丈夫かと不安に思った事もあった。

小さい頃のぼくは兄の事が羨ましく、嫌いだった。なぜなら、おもちゃなどの取り合いでいつもぼくだけが我慢していると思ったし、家族から大事にお世話されてとても気楽そうに見えたからだ。食べる事も着替えも何もかもお世話してもらっている兄とぼくを比べて、やきもちを焼いていた。

激しい兄弟ゲンカをして自分の気持ちを伝える事ができなかった分、心の中に嫉妬や憎しみなどの負の思いが溜まっていった。

ぼくの気持ちが変わったのは、多くの障がい者が犠牲になった事件からだ。こ

のニュースを聴いて、ぼくは「兄を守ってあげたい」と思った。今は兄との暮らしが楽しい。

兄もまた、6年生頃から大きく変わった。とても落ち着いた穏やかな「お兄さん」になった。兄は人に意地悪をしない。悪口を言わない。いつも穏やかに笑っている。

ぼくが「この先大丈夫か!？」と不安に思った兄と、兄を憎いと思ったぼくは、経験を経て信頼し合える兄弟になれた。

これからもぼくは、兄と楽しい毎日を送りたいと思っている。